

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600746		
法人名	社会福祉法人 新上五島町社会福祉協議会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町青方郷1379番地1		
自己評価作成日	平成28年10月3日	評価結果市町村受理日	平成29年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成28年11月24日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者が常に笑顔で過ごせるよう支援し、ともに生活をしている。具体的には、毎日の入浴や、散歩やドライブなどの外出、社協や地域の行事への参加を行い、生きがいを持てるよう支援している。また、さくら単独の大きな行事に「さくら祭り」と「さくら旅行」があり、家族や地域との交流の場となっている。そのような状況を「毎月の予定」や「さくら新聞」として定期的に発行し、家族や行政、推進会議の会員へ送付(持参)し周知していただくと共に、参加していただく事も多い。御利用者の身体への不安や、職員の精神的負担軽減のために訪問看護との契約も持続し、定期受診やターミナルケア時にも相談にのっていただいている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である社会福祉協議会が隣接し、近隣は商業施設がある賑やかな場所に位置する。散歩時は顔馴染みから多くの声かけがある。事業所や地域の行事には、双方向での交流が盛んで、地域密着の事業所であることが窺える。運営推進会議には多くの意見交換があり、丁寧に回答していることが議事録から確認できる。職員の研修の多さは事業所の特長であり、他事業所の優れた点を取り入れ改善に活かすなどサービス向上に繋がっている。ケアプランに沿った実践記録が解かりやすいことなど、管理者が職員を育てることでチーム力が増して、やりがいを感じ、職員の定着に繋がっている。利用者があるがままを受け入れ家族のように寄り添い、共に笑顔で暮らせるように理念に沿った支援の実践に努めている。協力医や訪問看護との連携も整備し、職員の負担軽減と本人家族の安心を得て、終末期の利用者が普段通りに生活している家庭的な事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームさくら さくら通り  
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆で理念を作り、スタッフ1人1人が理念を憶え、さくら内に掲示し、いつも笑顔でいれるよう心掛けている。また、管理者の変更で現場がわかっており、スタッフと共有できている。	理念は玄関や事務所に掲示し、職員が意識できるよう工夫しており、理念の一部「笑顔」の具現化に力を入れている。気持ちを出せない利用者も含め、全ての利用者が「笑顔」になるために寄り添い、語り掛けを多くして、皆で一緒に楽しく生活できるよう日々支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くに保育所や民家があり、散歩時など交流している。また、地域の人達との交流が途絶えないよう敬老会などの地域行事に参加している。	近隣住民とは挨拶を交わすなど日常的に交流の機会が多い。事業所主催の敬老会やクリスマスなどの多彩なイベントには、島内保育園から訪問がある。地域の行事にも利用者と職員が参加している。小中学校の福祉体験や大学生に実習施設として協力し、地域との繋がりを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	さくら内の行事の案内を出し、来ていただく事で、認知症の人の事を、理解して頂いている。また、年に数回、地域の方や学生向けの研修や勉強会を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催されている運営推進会議では、利用者様の状況や活動を報告し、意見を頂き、それを月に1度開催するさくら会議でスタッフに伝え、サービスに活かしている。	年6回、規程メンバーで開催し、利用者状況や活動報告の他、忌憚のない意見交換があり、意見は職員会議で共有している。地元へ伝わる「まーだかな祭り」を行い、地域と交流することや、災害対策マニュアルを見直し整備するなど、会議を有意義に活用し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、毎月のさくら便りを持参し、現状を伝えたり、認定調査時、申請時など、相談にのって頂いたりしている。	管理者は市担当職員と顔馴染みであり、毎月行事案内、お知らせなど窓口を訪問し、事業所の実情も伝えている。認定調査や申請時、解からないことへの適切なアドバイスを受けている。職員は、島内外の研修を積極的に受講しており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は、防犯上玄関の施錠を行うが、徘徊があっても、日中は常に開放している。利用者様が行いたいことを止めることなく、行って頂けるよう心掛けている。	隣接する施設の職員の協力もあり、徘徊など行動抑制せず見守っている。職員会議では島外研修を報告し、言葉による拘束についても周知している。職員が日常のケアについて不安を感じた際には、管理者に尋ね解決している。現在、身体拘束委員会発足に向けて準備中である。	職員の身体拘束に関する共通認識を図る為に、身体拘束委員会の発足が実践されることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力に関しては、自分自身が注意するのはもちろんだが、周りのスタッフにも日々注意を促している。代表のスタッフが研修に参加し、報告、周知し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、2名の利用者様が利用している。成年後見制度に関しては、研修案内が来ると、参加できるスタッフが参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、見学から詳しく説明し、疑問点などが残らないよう配慮している。また、改定などは、文書にて送付し、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、話せる雰囲気作りを行うよう努力している。また、玄関に苦情や要望を入れる箱を設置している。運営推進会議時、家族にも参加いただき、意見を頂いている。	利用者や家族の意見要望を反映する仕組みについて、利用開始時に説明している。ホーム便りで、月の予定や運営状況を報告したり、家族の訪問時にホームの様子を伝えることで、家族が気軽に意見などを話せる機会を作っている。家族の意見から、ホームだよりの文字を大きくし好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際、意見や提案を伝えることが出来る。また、個別にも随時、意見や提案をすることが出来る。	職員会議や日々の申し送りにおいて、職員が意見や提案を行っている。職員が個別に相談ができるよう個人ノートを準備し、どんな些細なことでも相談できるような仕組みがある。また、日頃から管理者が声掛けしている。職員の意見から、業務時間を見直すことで職員の休憩時間の確保に繋がった事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に相談したり、勤務時間など、個々の状況に応じた勤務を作成してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は、事務所の閲覧できるところに置かれ、行きたい研修に行くことができる。町内の研修には、行けるスタッフはなるべく参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の開催する勉強会などで、同業者と交流する機会が持っている。ニコねっとなどの同業者間の活動も年1回程度だが実施されている。また視察研修において、同業者の施設を視察し、勉強させて貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不穏時は、気持ちが落ち着くまで耳を傾けて、安心して頂けるよう努力している。日頃から、傾聴することを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	さくら入所前の状況や思い、これからの要望など、初期の段階で、本人や家族から詳しく伝えてもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	さくら入所申し込みから契約までに、他に方法はないのか、他サービス利用はできないのか、本人、家族を含めて話を行い、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも掲げ、共に生活できるよう心掛けている。一緒に掃除したり、茶碗を洗ったり、買い物に行ったり、普段の生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族の方にアドバイスを頂いたり、本人を交えて一緒にどうしたらよいか話したりしながら、一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	彼岸や盆の墓参り時、知人や親せきに連絡を取り、地元で話をして過ごせるよう努めている。また、入所前に通っていたデイサービスに遊びに行き、馴染みの方と話をする機会を作っている。	利用者の生活歴などは、利用開始時に本人や家族から情報を得ており、職員は情報を共有している。家族や知人の訪問も多く、外出や外泊も自由である。教区の神父やシスターの訪問、墓参りや地元巡りと称した各利用者の馴染みの場所へのドライブなど、継続的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間の性格等を把握し、座る位置を考えたり、一緒にできるレクリエーションを考えたりして、孤立しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、さくら祭りやさくら旅行の案内を出し、参加して頂いている。また、いつでも相談に乗ったりできるよう、会うたびに声をかけ、話をしたり、さくらに遊びにきて頂いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリング表や連絡帳を活用し、スタッフが共有して、利用者様が訴えたことを、実践できるよう努めている。	職員は、利用者一人ひとりの話を聞く時間を日常の様々な場面に設けている。また、相性の合うスタッフが、対応することもある。利用者が安心できる環境づくりが思いの把握に繋がっている。会話が困難な場合も、利用者の表情や仕草を基に、本人本位で検討している。得た情報は、個別記録に記載したり、申し送りで職員は共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人カルテに、基本情報を載せ、スタッフが共有できるようにしている。また、話の中で聞いたことを、記録するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の中で、個々の出来ることをして過ごして頂いている。無理強いせず、本人本位で行えるよう努めている。また、チェック表を活用し、バイタルや食事量なども把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のモニタリング表の結果や、月に1回のさくら会議での話し合いで、利用者様のケアについて考え、介護計画を作成している。	本人・家族の意向を反映し、長期6ヶ月短期3ヶ月の介護計画を作成し、家族に同意を得ている。日々の達成度が解かりやすい記録である。毎月の会議で全職員のアイデアを基に3ヶ月で見直し、入退院時や終末期には、随時見直している。利用者の個性を尊重した支援で、本人が役割を見つけ出すことにより安定を取り戻せた例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテ、業務日誌、ひやりはっと帳に記入し、スタッフ間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の介護以外に生まれるニーズに対応するため、フリーで動ける日を設けており、美容室に行ったり、地元へ出かけたり、柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる行事（敬老会など）への参加や、保育所との交流など、利用者様が楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは訪看契約を結び、小さいことまで相談できる関係が出来ている。担当になったスタッフは、家族にも他スタッフにも、情報は正確に伝えている。	利用開始時、協力医について家族へ説明し、同意を得て変更しており、その際、かかりつけ医からの情報を引き継いでいる。職員が受診支援を行っている。薬の変更や変化がある場合は電話で家族に伝えている。受診日誌や連絡ノートにて職員間で共有を図っている。個別に訪問看護契約があり、緊急時も協力医との連携体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職はいないが、隣接する社協の看護職に相談したり、訪看に相談している。訪看ノートを活用し、スタッフ間で共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、毎日見舞いに行き、状況をDrより聞き、HPノートを活用し、スタッフ間で共有している。地域連携室とは、密に連絡を取り、早期退院を促している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じて、その都度カンファレンスを開き、Dr、訪看、本人、家族と共に方針を共有し、支援に取り組んでいる。終末期には、個別の訪問看護契約を結び、安心して過ごせるよう支援している。	利用開始時、事業所指針の説明があり家族に書面で同意を得ている。段階的に主治医を交えた話し合いを持ち、利用者状況や家族意向に沿ったプラン変更がある。個別に訪問看護契約を結び、職員の負担軽減を図り、本人・家族が安らかに過ごせるよう支援している。管理者は、看取り後の新人職員のメンタルケアにも配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防で開催されるAEDの講習に、年1回、順番に参加している。緊急時は、マニュアルに沿って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の消防立ち合いの避難訓練を行っている。その他の自主訓練は、現在までのところ開催されていない。	年2回、消防署立会いにて夜間・昼間想定各々1回の火災訓練を隣接施設職員、近隣住民参加で実施している。全職員は消火器取扱いや火元の日々点検を励行している。また、備蓄・利用者持出情報完備で火災に備えている。ただし、自主訓練の検討段階である。また、自然災害マニュアルは整備しているが、訓練はこれからである。	突然の火災に職員が落ち着いて、利用者に対して避難誘導などの対応ができるように、マニュアルに沿った自主訓練が望まれる。自然災害マニュアルに沿った訓練実施にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ、ゆっくり、分かる言葉で話すよう心掛けている。人生の先輩という事を忘れず、利用者様の自尊心を傷つけないよう対応している。	トイレの誘導・介助時や親しみのある方言で接する時も、常に尊厳を念頭に置き支援している。また、ミーティングで注意喚起がある。利用者を人生の先輩として敬い、安全を確保し支援に努めている。個人情報適切に保管し、写真記載は、契約時に書面にて同意を得ている。職員の守秘義務は、退職後も含めて周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えを早く出してもらおうとせず、考えてもらう時間を作るよう努めている。会話の中で、思いを感じ取り、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の出来る事を把握し、出来る限り、希望にそえるよう支援しているが、時間に追われ、できていない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は(HP受診や行事など)マニキュアをつけたり、化粧をしたり、アクセサリーをつけたりと、オシャレに気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物へ行き、食材を選んで頂いたり、お茶を入れて頂いたり、お皿を種類ごとに分けて頂いたり、茶碗を洗って頂いたり、個々に応じた事を一緒に行っている。	利用者の嗜好や地元の食材を基に、職員が献立を作成している。その日の状況で、献立を変えることもある。献立表は家族にも配布しており、アレルギーなどの場合は、代替食を提供している。下準備や茶碗洗いなど手伝う利用者もいる。誕生日の特別メニューや季節行事にあわせた献立、外食の日もあり、食事を楽しむ工夫がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェック表に記入し把握している。個々の状態に応じて、とろみ食、きざみ食、低脂肪食などの支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方は、自分で口腔ケアをして頂き、他の方は介助で実施し、歯ブラシ、モアブラシを使用して行っている。夕食後は義歯を外し、洗浄剤につけて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は2時間ごとに排泄誘導し、尿とりパットの使用量を減らすようにしている。夜間は、能力に応じてポータブルトイレを利用される利用者様もいるが、日中同様、時間誘導している。	座位排泄を支援している。体調に応じポータブルトイレを使用することもある。排泄チェック表を個別に作成し、職員は支援状況を把握することで、適切に声掛けや誘導を行っている。オムツの使用はない。職員は状況に応じ支援内容を検討することで、失禁頻度が減ったり、適切なパッド類や布パンツ使用となり、利用者は快適に過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に、根菜や乳製品など取り入れたり、おなか周りの運動を実施したりしている。また、HPで相談し、便剤を使用されている利用者様もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴できる環境を作っている。利用者様に応じて、男性を拒否される方は女性に対応したり、排便後そのまま入浴したり、個々に応じた支援をしている。	毎日午後から入浴準備し、体調に合わせ声掛けしている。拒否時は強制せず、日を改めています。湯船に浸かるよう支援し、希望に沿ってシャワー浴で対応することもある。ガーゼで体を洗い、皮膚への負担を配慮している。シャンプー類や入浴後のローションなど、個別に対応している。職員とゆっくり会話し、入浴を楽しむよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体調管理や習慣に応じて、居室に休まれる利用者様は休んで頂いたりしている。夜間は、空調や採光などに注意し、気持ちよく眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診の都度、薬の変化がある場合はHPノートに記入し、個人カルテに添付している。また、誤薬がないよう、服薬時は個数を復唱し、チェック表に記入をし飲んで頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物をされていた方は縫い物、書くことをされていた方は書き物、調理が好きの方は調理下ごしらえなど、利用者様のしたいこと、できる事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、ドライブに出て、行きたいところに行けるよう、努めている。行事などで、釣り大会や墓参りなど、家族に協力して頂いて、実施している。	天候や体調に配慮しながら、ホーム周辺の散歩や中庭での草むしりなど利用者の希望に応じている。個別の希望で、買い物や墓参りなどの外出している。墓参りでは、墓地で家族と待ち合わせている。初詣や釣り大会など季節毎に島内への外出を実施している。家族と共に島外旅行も毎年行われ、利用者の楽しみになっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、利用者様本人が、お金の所持をされている方はいない。家族が管理されているが、希望者はスタッフと買い物へ出かけたりされている。また、年1回は買い物ツアーを実施し、自分で支払い、好きな物を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、本人自ら電話することも可能。家族からの電話には本人が代わり、話をされている。暑中見舞いや年賀状など、書ける利用者様はかかっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせて、雰囲気作りに努めている。室温や採光に配慮し、居心地良く過ごせるよう、工夫している。壁や玄関の飾りなど、毎月スタッフが変更し、季節感のある空間になっている。	天井が高く開放的で、大きな窓から景色が望める。リビング入口に、フェルトで作成した理念が飾られ、壁は季節の飾り付けで温かい雰囲気である。中庭を囲む回廊は、自立歩行者の妨げにならないように物を置かず広々としている。職員による毎日の清掃、換気や温度管理で、臭気もなく快適に過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたいと居室に入られる利用者様もいるが、ほとんどリビングで過ごされている。テレビを見たり、好きなことをしたりして、個々で自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やマリア像など置かれたり、テレビやソファを置かれたりと、使い慣れたもの、見慣れたものを持ち込んで頂いている。衣替えの時期は、家族が来られ、一緒に行われる方もいる。	居室の入り口は温か味のある手作りの表札やカーテンが掛けられている。壁には家族写真を飾り、仏壇やマリア像が置かれている。ベッドの向きも利用者の好みや使い勝手に自由に設置している。パッド類は装飾した収納箱に収めるなど羞恥心への配慮がある。職員による清掃や温度管理で過ごしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりを設置し、できるだけ自力歩行をして頂いている。廊下には歩行を妨げるものを置かないようにしている。自分の居室が分かるよう表札を作ったり、トイレの場所を案内する貼り紙を貼ったりと工夫している。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600746		
法人名	社会福祉法人 新上五島町社会福祉協議会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	長崎県新上五島町青方郷1379番地1		
自己評価作成日	平成28年10月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者が常に笑顔で過ごせるよう支援し、ともに生活をしている。具体的には、毎日の入浴や、散歩やドライブなどの外出、社協や地域の行事への参加を行い、生きがいを持てるよう支援している。また、さくら単独の大きな行事に「さくら祭り」と「さくら旅行」があり、家族や地域との交流の場となっている。そのような状況を「毎月の予定」や「さくら新聞」として定期的に発行し、家族や行政、推進会議の会員へ送付(持参)し周知していただくと共に、参加していただく事も多い。御利用者の身体への不安や、職員の精神的負担軽減のために訪問看護との契約も持続し、定期受診やターミナルケア時にも相談にのっていただいている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に理念を掲示。毎月1回の会議等で、その都度ケアにつながる話し合いを行う。各職員が理念を覚えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の関わりがある地域行事、年に1度の職場の祭りなど参加してもらっている。地元のお店で買い物同行してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の実習や体験学習、研修を提供し人材育成に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者から、率直な意見を聞いて年に1度の祭り等に取り入れてサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば、必要に応じて電話で相談している。密接に連絡をとりながら取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外、玄関は開放している。職員同士声掛けを行い、徘徊のある利用者には見守り、声掛けをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	出血、打撲など気づけば報告している。研修で学んだ職員が会議等で報告している。勉強会で声掛けや言葉使いについて職員間で話しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学ぶ機会を持ち理解を深めるよう、努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明している。疑問点等あれば、随時家族からの問い合わせに対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二か月に1度会議を設け、意見を聞く場を持っている。玄関入り口に意見箱を設置している。面会の際は、日頃の様子を話している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡帳を活用したり、月に1度の会議を行い、スタッフ間が意見が出やすい仕組みを作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩が取れるようになった。個人的に話しを聞いたり、相談や意見を聞き入れてくれ、働きやすい環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主的に研修を受ける機会を設けている。研修に行く機会が増え、新たに学ぶ事や知識が増えた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会などの参加などで、同業者の意見や話しが聞けるようになった。年に1度外部から講師を招き、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困った事や不安を取り除く事を優先し、要望に耳を傾け安心させるよう、思いを理解するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に時間を取り、困っている事や不安を聞き信頼関係ができるよう、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の思いを聞き、ケアマネージャーと連携し早急な対応を努めている。その時必要な支援を会議等で話している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意見を聞き、出来る事をお願いして頂いている。知恵をかりたり、手伝ってもらう事でお互いよりよい生活ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にホームでの行事に参加してもらったり、正月、盆は外出されている利用者もいる。何かあれば、家族に相談し意見を尊重している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会で来られた時は、部屋でゆっくり話ができるようにしている。行事を通じ、家族を招待している。地域の行事に参加し友人等と一緒に過ごして頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、リビングで過ごして頂き孤立しないよう声掛けしている。リビングやテーブルで座る位置を考え、トラブルがないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年に1度ある利用者の旅行に誘っていて、毎年参加して頂いている家族もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前の暮らしや性格等を把握し、できるだけ本人にあった環境作りに努めている。会議や引き継ぎ等で意見を出している。困難な場合は、行動表情から意思を把握するよう努める。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の馴染みの物を居室に飾っている。家族や利用者から話を聞いたり、ケアマネージャーの情報を元に把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎食後のバイタルチェックを行っている。何か特変があれば、朝夕の引き継ぎ時に申し送りをしている。利用者のケアプランに沿って、ケアを行う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に要望を聞いたり、会議や医師の意見を参考にしその都度現状にあったケアが出来るよう、努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテや業務日誌に日々の様子を記入している。特変や気づきがあれば、連絡帳に記入して情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の変化等、その都度利用者にあったサービスを提供できるよう、会議や連絡帳等でニーズに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加している。病院受診、買い物同行等支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携し、受診の時は日頃の状態を説明し、その都度適した医療を受け入れるようにしている。訪問診療が出来るように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	業務提携しているため、週1回の訪問看護に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎日病院に行き、看護師やヘルパーからの話を聞いてくる。清潔に過ごして頂けるように洗濯物を毎日持って帰って洗濯している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合いを行い、利用者と家族が望む事を優先している。訪問看護や訪問診療を利用している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練、応急手当での講習は受けている。緊急時や各利用者の急変時のマニュアルがあるので、それに沿って実行している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防訓練や避難訓練を定期的に行い、避難方法を確認している。家族や地域の人にも協力してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、人格を尊重し丁寧な声掛けには注意している。トイレの声かけには、直接言うのではなく何か誘うように工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中できるだけ会話をたくさんし、利用者の気持ちを理解できるように努めている。問いかけてみて、返答を待つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で動いてしまっている時もある。体調や気持ちを察し、臨機応変に対応するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時々美容室へ出掛けている。入浴できなかった利用者も毎日着替えて頂いている。行事や外出時には、お洒落な服や化粧を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会やお祝い事には、いつもと違う食事をする。出来る利用者には、準備片付けを手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	トロミ剤を使ったり、ゼリーやミキサー食で提供している。決められた水分表を守るように職員で徹底している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けをし、出来る利用者には見守りながら最後の仕上げをしている。義歯使用の利用者は、職員が毎食後洗浄している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員で会議で時間を決めて、失敗しないように各々にあった排泄誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行練習をしてもらっている。飲み物や食べ物等で工夫している。水分補給や便剤の使用量、服用日設定など、話しあって決めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調が悪ければ、中止する。入浴嫌いな利用者には、時間を配慮し声掛けを工夫し気持ちよく入浴できるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者、職員でレクリエーションをしたり、休みたい利用者は自由に一人の時間を過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎服薬時には、職員が利用者の名前と薬の個数を口に出している。各利用者の薬一覧表があり、薬の目的や副作用等把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物同行、ドライブ、散歩等気分転換になる事を考え実行している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は散歩やドライブの声掛けをしている。行事参加や旅行等支援している。お盆の時は故郷へ帰れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設が管理している。旅行の時は、家族に了解を得てお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は、利用者にてでもらう時もある。ハガキや手紙が届けば渡し、読めない利用者は代わって読んでいる。荷物が届けば、電話をかけてお礼を言えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓、気になる汚れを見つけた時は、その時に掃除するようにしている。トイレがわかるよう看板を掛けたり、中が見えないように暖簾をかけている。季節に応じて、飾りを変えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士のストレスを軽減するため、テーブルやソファに座る位置を毎回考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や利用者の好きな物を飾ったり居心地よく過ごして頂けるよう、努めている。家具や居室の移動は、家族と相談して決めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはわかりやすく、“かわや”と書いている。トイレ入り口や中、風呂場、廊下に手すりを設けている。利用者の居室には、本人が分かるように表札をつけている。		